

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【公表番号】特表2015-534641(P2015-534641A)

【公表日】平成27年12月3日(2015.12.3)

【年通号数】公開・登録公報2015-075

【出願番号】特願2015-532297(P2015-532297)

【国際特許分類】

G 01 J 1/42 (2006.01)

G 01 J 1/02 (2006.01)

H 01 L 31/10 (2006.01)

【F I】

G 01 J 1/42 L

G 01 J 1/02 B

H 01 L 31/10 G

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年6月24日(2016.6.24)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

周囲光センサを調整するための方法であって、

前記周囲光センサによって受信された光の色温度を取得するステップと、

異なる色温度を有する受信された光の下で、前記周囲光センサの出力光強度が一致することを可能にするために、前記色温度に基づいて前記周囲光センサの出力光強度を調整するステップと

を有し、

前記周囲光センサは、可視光および赤外光に対して敏感である第1フォトダイオードと、赤外光に対してのみ敏感である第2フォトダイオードとを有し、

前記周囲光センサによって受信された光の色温度を取得する前記ステップは、

前記周囲光センサによって受信された前記光の光スペクトル曲線と、前記第1フォトダイオードが有する前記第1フォトダイオードの光感度曲線と、前記第2フォトダイオードが有する前記第2フォトダイオードの光感度曲線とを取得するステップと、

第1データパラメータCdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第1フォトダイオードの前記光感度曲線とを積分するとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第2フォトダイオードの前記光感度曲線とを積分するステップと、

パラメータ比

【数1】

$\frac{Cdata}{Irdata}$

を取得するステップであって、前記パラメータ比

【数2】

$$\frac{C_{data}}{I_{rdata}}$$

は、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記色温度を反映するために使用される、ステップと

を有し、

前記周囲光センサの前記出力光強度は、以下の出力光強度の計算式：

$Lux = K \times MAX [(C_{data} - B \times I_{rdata}), (C \times C_{data} - D \times I_{rdata}), 0]$
に基づいて取得され、Luxは前記周囲光センサの出力光強度であり、K、B、CおよびDは、前記周囲光センサの前記出力光強度が、人間の目によって知覚される光強度に近くなることを可能にするために使用される係数であり、MAXは最大値を取得するための演算記号であり、

異なる色温度を有する受信された光の下で、前記周囲光センサの出力光強度が一致することを可能にするために、前記色温度に基づいて前記周囲光センサの出力光強度を調整する前記ステップの処理は、

異なるパラメータ比

【数3】

$$\frac{C_{data}}{I_{rdata}}$$

に対して、前記周囲光センサの前記出力光強度Luxが一致することを可能にするために、異なるパラメータ比

【数4】

$$\frac{C_{data}}{I_{rdata}}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式におけるKの値を調整するステップ
である、方法。

【請求項2】

異なるパラメータ比

【数5】

$$\frac{C_{data}}{I_{rdata}}$$

に対して、前記周囲光センサの前記出力光強度Luxが一致することを可能にするために、異なるパラメータ比

【数6】

$$\frac{C_{data}}{I_{rdata}}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式におけるKの値を調整する前記ステップの処理は、
前記パラメータ比

【数7】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に対して、前記周囲光センサの前記出力光強度が、前記周囲光センサによって受信された前記光の強度と等しくなることを可能にするために、前記異なるパラメータ比

【数8】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式における前記Kの値を調整するステップである、請求項1に記載の周囲光センサを調整するための方法。

【請求項3】

周囲光センサであって、

前記周囲光センサによって受信された光の色温度を取得するように構成される取得装置と、

異なる色温度を有する受信された光の下で、前記周囲光センサの出力光強度が一致することを可能にするために、前記取得装置によって取得された前記色温度に基づいて前記周囲光センサの出力光強度を調整するように構成される調整装置とを有し、

可視光および赤外光に対して敏感である第1 fotodiodeと、赤外光に対してのみ敏感である第2 fotodiodeとをさらに有し、

前記取得装置は、

前記周囲光センサによって受信された前記光の光スペクトル曲線と、前記第1 fotodiodeが有する前記第1 fotodiodeの光感度曲線と、前記第2 fotodiodeが有する前記第2 fotodiodeの光感度曲線とを取得するように構成されるサブ取得装置と、

第1データパラメータCdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第1 fotodiodeの前記光感度曲線とを積分するとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第2 fotodiodeの前記光感度曲線とを積分するように構成される積分装置と、

パラメータ比

【数9】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

を取得するように構成されるパラメータ比計算器であって、前記パラメータ比

【数10】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

は、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記色温度を反映するために使用される、パラメータ比計算器と

を有し、

前記出力光強度を計算するように構成される出力光強度計算器であって、出力光強度の計算式は：

$\text{Lux} = K \times \text{MAX} [(\text{Cdata} - B \times \text{Irdata}), (C \times \text{Cdata} - D \times \text{Irdata}), 0]$

であり、Luxは前記周囲光センサの出力光強度であり、K、B、CおよびDは、前記周囲光セ

ンサの前記出力光強度が、人間の目によって知覚される光強度に近くなることを可能にするために使用される係数であり、MAXは最大値を取得するための演算記号である、出力光強度計算器をさらに有し、

前記調整装置は、具体的には、異なるパラメータ比

【数11】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に対して、前記周囲光センサの前記出力光強度Luxが一致することを可能にするために、異なるパラメータ比

【数12】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式におけるKの値を調整するように構成される、周囲光センサ。

【請求項4】

前記調整装置は、具体的には、

前記パラメータ比

【数13】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に対して、前記周囲光センサの前記出力光強度が、前記周囲光センサによって受信された前記光の強度と等しくなることを可能にするために、前記異なるパラメータ比

【数14】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式における前記Kの値を調整するように構成される、請求項3に記載の周囲光センサ。

【請求項5】

表示機器と、前記表示機器に接続される表示の明るさを調整する機器と、請求項3または4に記載の前記周囲光センサとを有する電子機器であって、前記周囲光センサは、前記表示の明るさを調整する機器に接続される、電子機器。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

さらに、前記周囲光センサは、可視光および赤外光に対して敏感である第1フォトダイオードと、赤外光に対してのみ敏感である第2フォトダイオードとを有し、

前記周囲光センサによって受信された光の色温度を取得する前記ステップは、

前記周囲光センサによって受信された前記光の光スペクトル曲線と、前記第1フォトダイオードの光感度曲線と、前記第2フォトダイオードの光感度曲線とを取得するステップと、

第1データパラメータCdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第1フォトダイオードの前記光感度曲線とを積分するとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、前記周囲光センサによ

って受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第2フォトダイオードの前記光感度曲線とを積分するステップと、

パラメータ比

【数15】

$$\frac{Cdata}{Irdata}$$

を取得するステップであって、前記パラメータ比

【数16】

$$\frac{Cdata}{Irdata}$$

は、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記色温度を反映するために使用される、ステップと

を有し、前記周囲光センサの前記出力光強度は、以下の出力光強度の計算式：

$Lux = K \times MAX [(Cdata - B \times Irdata), (C \times Cdata - D \times Irdata), 0]$

に基づいて取得され、Luxは前記周囲光センサの出力光強度であり、K、B、CおよびDは、前記周囲光センサの前記出力光強度が、人間の目によって知覚される光強度に近くなることを可能にするために使用される係数であり、MAXは最大値を取得するための演算記号であり、

前記周囲光センサが異なる色温度を有する光を受信したときに、出力光強度が一致することを可能にするために、色温度に基づいて前記周囲光センサの出力光強度を調整する前記ステップの処理は、

パラメータ比

【数17】

$$\frac{Cdata}{Irdata}$$

が異なる場合に、前記周囲光センサの前記出力光強度Luxが一致することを可能にするために、異なるパラメータ比

【数18】

$$\frac{Cdata}{Irdata}$$

に基づいて、前記出力光強度の計算式におけるKの値を調整するステップである。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

さらに、前記周囲光センサは、可視光および赤外光に対して敏感である第1フォトダイオードと、赤外光に対してのみ敏感である第2フォトダイオードとをさらに有し、

前記取得装置は、

前記周囲光センサによって受信された前記光の光スペクトル曲線と、前記第1フォト

ダイオードの光感度曲線と、前記第2フォトダイオードの光感度曲線とを取得するように構成されるサブ取得装置と、

第1データパラメータCdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第1フォトダイオードの前記光感度曲線との積分を可能にするとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記光スペクトル曲線と、前記第2フォトダイオードの前記光感度曲線との積分を可能にするように構成される積分装置と、

パラメータ比

【数19】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

を取得するように構成されるパラメータ比計算器であって、前記パラメータ比

【数20】

$$\frac{\text{Cdata}}{\text{Irdata}}$$

は、前記周囲光センサによって受信された前記光の前記色温度を反映するために使用される、パラメータ比計算器と

を有する。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0027

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0027】

ステップ1012：第1データパラメータCdataを取得するために、周囲光センサによって受信された光の光スペクトル曲線と、第1フォトダイオードの光感度曲線とを積分するとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、周囲光センサによって受信された光の光スペクトル曲線と、第2フォトダイオードの光感度曲線とを積分する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

さらに、図7に示されるように、前述の周囲光センサは、

可視光および赤外光に対して敏感である第1フォトダイオードD1と、赤外光に対してのみ敏感である第2フォトダイオードD2とをさらに有し、

取得装置1は、

周囲光センサによって受信された光の光スペクトル曲線と、第1フォトダイオード4の光感度曲線と、第2フォトダイオード5の光感度曲線とを取得するように構成されるサブ取得装置11と、

第1データパラメータCdataを取得するために、周囲光センサによって受信された光の光スペクトル曲線と、第1フォトダイオード4の光感度曲線とを積分するとともに、第2データパラメータIrdataを取得するために、周囲光センサによって受信された光の光スペクトル曲線と、第2フォトダイオード5の光感度曲線とを積分するように構成される積分装置12と、

パラメータ比

【数21】

$$\frac{C_{\text{data}}}{I_{\text{rdata}}}$$

を取得するように構成されるパラメータ比計算器13であって、前記パラメータ比

【数22】

$$\frac{C_{\text{data}}}{I_{\text{rdata}}}$$

は、周囲光センサによって受信された光の色温度を反映するために使用される、パラメータ比計算器13と

を有する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

- 1 取得装置
- 2 調整装置
- 3 出力光強度計算器
- 4 第1フォトダイオード
- 5 第2フォトダイオード
- 11 サブ取得装置
- 12 積分装置
- 13 パラメータ比計算器

【誤訳訂正7】

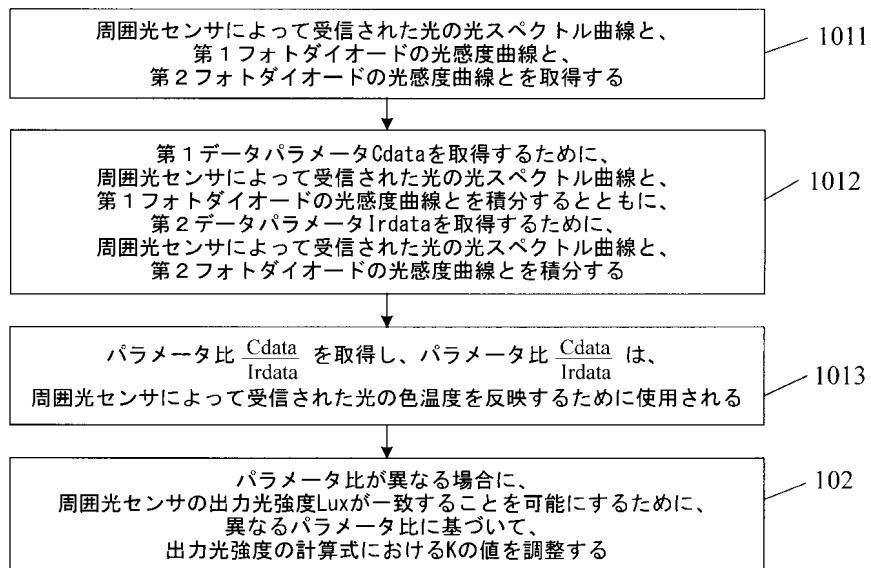
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図3】



【誤訛訂正8】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図7】

